

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4190100273		
法人名	社会福祉法人 扇寿会		
事業所名	グループホーム寿		
所在地	佐賀県佐賀市嘉瀬町大字扇町2340-1		
自己評価作成日	平成26年12月 1日	評価結果市町村受理日	平成27年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成27年1月9日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム建物の西側には、季節の樹木が植わった庭、建物南に面したテラスを設けており、折に触れて、日光浴や各自散歩を楽しむなど、入居者が季節の瞬間瞬間を楽しめる様、心がけております。実際に、暖かい日光の下では、自然に笑顔がこぼれている入居者の顔を見ることが出来ます。また、地域コミュニティールームは、12名はゆったりと腰を落ち着ける事が出来、地域の方に利用して頂けるよう門戸を開けております。7月には地域の民生委員氏が主宰する、市内の民生委員の集まりにも利用して頂きました。なお、協力病院が歩いて数分の場所にあり、入居者の方々一人一人の健康管理には敏感に対応し、家族との連携も密に行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

国道沿いに位置する、開設2年目の新しいホームである。広いリビングには大きな窓があり、日光がたくさん入るため、明るい雰囲気がある。ホーム内には地域コミュニティールームが設けられ、地域の方の演奏会等の行事、民生委員の会議等に利用されている。屋外には広いテラスが設けられ、そこを抜けると季節の樹木を植えた庭に出ることができ、散歩を楽しむことができる場所となっている。また、協力医療機関が近隣にあるため、緊急時等24時間体制で適切な医療が受けられるよう支援されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき、日々の勤務の中で、申し送りノートや定期的なスタッフ会議で理念の共有に努めているが、スタッフ全体での話し合いの場は持っていない。行事等をスタッフの勤務調整の機会とし、話し合いを最大限試みています。	事業所独自の理念を作られ、掲示されている。申し送りノートや定期的な会議を活用しながら共有し、理念に基づいた目標を毎月掲げ、実践につなげられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの受け入れ等、交流の機会を取り入れている。地区で行なわれる地元の行事への参加を検討しており、地域の方々や民生委員氏より色々と詳細な情報を得ながら、参加できる行事には参加したいと思えます。	地域の方と挨拶をしたりと、日常的に交流されている。また、地域のボランティア等の来訪があったり、地域の公民館の行事に参加したりと、積極的に交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の行事への参加を検討している。また、当施設の地域交流室は、地域の方に利用して頂けるよう、門戸を開けており、7月には地域の民生委員氏が主宰する、市内の民生委員の集まりに利用して頂きました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族や民生委員、地域包括支援センターの参加を頂き、現状報告や活動報告についての質問、意見や助言、評価の場となっている。議事録を施設の見やすい箇所に公表し、スタッフ会議で発表する事で、サービス向上につなげている。	2ヶ月に1回開催し、入居者家族や民生委員、地域のボランティア代表、地域包括支援センター職員等の参加があつている。活動報告や活発な意見交換がなされ、そこでの意見をサービス向上に活かすよう努められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時は、必ず「おたっしや本舗昭栄」から、包括支援センターの職員が参加してくれ、情報を頂く機会となっている。また、その他の時にも、来訪のしてくれ、つながりを持っている。折に触れ、色々と情報を聞くことが多い。	市の担当者とは連絡を密に取り、相談し易い良好な協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に、内部研修にて身体拘束についての学習を実施し、スタッフ全員で問題の共有を図っている。手動の玄関には、前回のパイプチャイムの代わりに、9月より電話回線によるチャイムを設置し、より大きな音が出るようになった為、入居者を含め、人の出入りが明確に分かる様になった。	玄関にチャイムを設置する等し、施錠を含め身体拘束は一切されていない。身体拘束をしないケアについての内部研修を実施し、職員全員で共有しながら実践につなげられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に、内部研修にて高齢者虐待防止関連法についての学習を実施し、スタッフ全員で問題の共有を図っている。家族会・地域の方の交流の場でも、注意を払ってゆく。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に2名、実際に成年後見人が付いておられるので、スタッフ間でその入居者の事を話し合う際、ある程度の興味とおぼろげながらの知識で対応している。この11月30日に『権利擁護』についての内部研修をしたばかり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には項目ごとに質問を問う機会を得られるようにし、その度に納得してもらうまで説明している。細かい事も添付書類等で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、毎月の家族への情報の便り等で機会を設けて実践につなげている。苦情箱の設置をしており、苦情については代表者に届けて判断してもらう仕組み。	運営推進会議や家族会、面会、受診付き添いの際に入居者や家族等の意見を聞き、それらを運営に反映するよう努められている。また、意見箱も設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議の機会と申し送りノートの設置によって対応している。運営者は系列の施設での会議に管理者も参加させ提案を伝える機会を設けている。	定期的な会議や申し送りノートを活用しながら、職員の意見や提案を聞き、運営に反映するよう努められている。また、職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体のスタッフ会議の機会を得るのが困難で、勉強の時間が少ない。少ない時間での会議でも、伝わりやすい内容と、「気づきノート」等によって向上心が養われるよう努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連研修に参加できている。8月には、介護職員が認知症実践者研修に参加した。また、各介護職員が、諸資格取得にも情熱を持っている。研修の機会以外に専門職の評価によって記録などの指導の機会を得たい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連研修会の参加を実践している。新しい事に携わる場合は、他の施設に尋ねたりもしている。近隣の同業者との勉強会等の機会があれば参加し交流を図ってゆきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査などで面会し、聞き取りの機会を設けて入居後の生活の不安面、問題点に対する策を理解を得るまで本人と話す。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や質問ができやすいように見学日を入居申し込みの記入欄に沿って説明をしている。聞き取り中にも段階を踏まえて問題点に対しての対応案を納得いくまで話し合う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対象者の個性や希望を踏まえ、対象者とその家族の全体像を見ることに努め、今現在必要なサービスの検討をする。その為には、他のサービスの関係者との連携もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションや行事などで一緒に楽しく過ごしている。大正時代の歴史上の人物の話も聞く機会がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時の面会や受診の付き添いをお願いする。相談事もされており、家族と共に最大限の支援が出来るよう努めている。中には、日程を決めて、古いレコードを聞かせたり、本の読み聞かせなどを予定して下さるご家族もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、知人、地域のボランティア、家族が来訪、交流の場とし、馴染みの継続を図っている。また、以前の新聞切抜きや写真集を開いて思い出話を聞いている。	友人や知人等、馴染みの人の来訪が定期的にあっている。その際は、居室でゆっくり過ごせるよう声掛けし配慮されている。また、自宅近くの神社へドライブに行ったりと、馴染みの場所とも関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間の関係を見守りながら支援しているし、入居者全員に対し、平等な関わりを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	直面していないが、運営推進会議等に参加できる機会を設けて、意見を聞きたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で、個々の要望や思い出に関心を持ち、把握した事柄をケアプランに反映させるよう努めている。	普段の会話や関わりの中から、一人ひとりの思いや意向の把握に努められている。困難な場合は、仕草や様子などから本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族に聞き取り調査をしている。また、入所後も対象者一人一人に接する際に、その方の人生の歴史を伺う機会があるので、細かい事に関しては段々にではあるが、把握できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の希望を尊重、心身の状態把握を常に行いながら関わり、暮らしの記録を取る事で、生活歴を形成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望に沿うように、本人の状態や家族の状況を加味しつつ、関係者で話し合い援助プランとしている。前回の外部評価時に助言を頂き、3か月に一度実施している。重度化の傾向があり、変更申請も随時行なっている。	本人や家族、看護師等と話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画が作成されている。定期的にモニタリングを行い、必要に応じて計画を修正、変更されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ会議では検討されているが、サービス提供記録が不十分。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期や体調不良時の受診、処方を受け取り、入退院の付き添いは、殆ど介護職員が対応している。また、精神症状があり、不穏になられた入居者を車に乗せ、公園に連れて行ったり、買い物に連れて行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの支援により夏祭り等の行事の支援を行なっている。民生委員・駐在所・近隣の方々との関わりがもっと必要であると感じており、機会があれば接触を試み、お話ししている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医への受診には介護職員が付き添いをしており、受診の際には、熱型票や近々の状態をまとめて主治医に参考にしてもらっている。また、週2回、訪問看護にも来てもらっている。	家族の同意のもと、協力医療機関がかかりつけ医となっている。付き添い支援されているが、必要に応じて家族も同行されている。協力医療機関とは、24時間体制の協力関係が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と週2回契約しており、主治医との連携を図っており、状態の心配な入居者の事で相談をし、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が中心となり病院と連携、情報交換をしている。入院中の洗濯物等は介護職員が対応。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では、重度化した場合における対応の指針を作成しており、入居時に説明と同意を得ている。入居者各人の状態により、本人や家族、主治医等の関係者と連携しながら、関わってゆく。	重度化した場合や終末期のケアについては、契約時に説明し、同意を得られている。実際に重度化した方はいないが、状態の変化に応じて、協力医療機関と話し合いながら対応されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の整備をし、実践力を身に付ける為の各種訓練・研修は、機会があれば受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間を想定しての通報・消火・避難訓練を行なっている。飲料水・食料の備蓄と必要物品も揃えている。運営推進会議の場で、自治会で実施している「防災部会」への参加を勧められているので、参加の機会を得ようと考えています。	年2回、昼夜を想定した避難訓練が実施されている。非常食等の備蓄や、災害に備えた携帯毛布やライト等持ち出し品も準備されている。地域との協力体制については、地域の防災部会への参加等を今後検討されている。	自治会への参加等、今後の地域との協力体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接し方、声掛けなどのコミュニケーションの際には配慮するように、スタッフ会議では注意をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応がなされている。また、勉強会を実施し、言葉かけや対応の仕方について確認・共有されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け、傾聴により本人の要望等を知る機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルに合わせて、入居者のペースを守り、意思の尊重をしつつ気持ちの把握に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の要望に沿うように、関係者で話し合い援助プランとしている。派遣美容か、馴染みの美容室を利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を入所者と一緒にするのは難しいが、盛り付けや、片付けの部分では、出来るだけして頂くようにしている。	入居者と職員と一緒に盛り付けや片付け、おやつ作り等をされている。また、テラスでお茶をしたり、おやつを食べたりと、食事が楽しみなものになるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた食事と水分補給は頻繁に行なっている。また、空気乾燥中の折は、大きな加湿器が働いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、義歯の清掃の支援を毎日行っている。出来る限りは、一人一人自力でやってもらい、不足している部分を介助者が支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況に応じて、本人の了承を得、適切な排泄の支援をしている。すべての入居者の、大体の排泄パターンを介護職員は把握しており、可能な限りトイレに時間ごとの誘導をしている。	排泄チェック表を活用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の健康記録を確認し、便秘予防及びスムーズな排便に対する対策をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則、曜日を定めて入浴日を決めているが、要望には随時応じている状況。足部の皮膚疾患の方などには、毎日の足浴を実施しているし、拒否される場合は無理をしない。	基本的に入浴日が決まっているが、希望に応じていつでも入浴が可能で、本人のペースやタイミングに配慮されている。また、足浴も実施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	要望があった場合や状態的に休息が必要な方には、声掛けにより、自室で休息を取っていただいている。基本的に自由にされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員は各入居者の服薬の在り方を把握しているので、処方箋の内容を確認しながら、必要なら錠剤を砕くなどして、確実に服薬が出来ているかの管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみ、新聞紙折り、布切り、盛り付け、献立記入、テーブル拭き等、個々で出来ることをそれぞれ意欲的にされている。また、折に触れての、行事、バスハイクなどを楽しまれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院リハビリや行事、外出レクリエーションの支援は主に介護職員で、その他の場合は家族の協力を得ている。	花見や公園へのドライブ、法人行事への参加等、季節に応じた外出支援がなされている。外出は、複数で行くことが中心で、個別の希望に沿った外出は家族の支援で行われている。	家族支援の困難な入居者など、ホームでも、個別の希望に沿った外出の機会が増えるよう、機会作りに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中の1名は家族との了解の下、お金を所持し、自己管理をしている。2名は家族の了解で所持のみしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、家族の了解の中、自由にして頂いている。必要な部分を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのよい環境と室内には時節感のある物例えば「お雛様」や「兜」「生け花」を飾り、廊下には、季節の風物詩を模写した貼り絵等を、入居者と一緒に作り、展示している。	窓が大きいので日当たりや見晴がよく、レースの白いカーテンなど使われ、明るい雰囲気がある。入居者と一緒に作成した貼り絵等、季節ごとの装飾品が飾られ、季節感を採り入れられている。また、空調設備での温湿度の管理、夜間は音がしないようスリッパを履きかえる等、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士の交流に配慮をしている。また、自室での静養も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ湯呑や食器、仏壇、写真などで穏やかに過ごせるよう配慮している。	タンスや仏壇、写真等、使い慣れたものや好みのものを何でも持ち込みが可能である。また、希望に応じて畳を敷いたり、就寝の際にベッドを低くしたりと、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るまでゆっくり声掛けして支援している。		